

「第6回（令和5年度 第3回）日田市文化財保存活用地域計画協議会」の主な意見

- 1 開催日時 令和6年2月22日（木） 13時30分～16時40分
- 2 場 所 日田市役所 本庁舎4階 庁議室
- 3 議 事 ・日田市文化財保存活用地域計画（素案）について【資料1・2】
・今後のスケジュール【資料3】
- 4 議事内容

・日田市文化財保存活用地域計画（素案）について

○配布資料1に基づき事務局から序章～第2章について説明

- ・SDGs について、日田市は大分県内でも特に水害等の災害や気候の変動に見舞われる場所であることから、現在挙げている4・8・11・17の項目のほかに、13の「気候変動に具体的な対策を」も入れておいたほうがよいと思う。

- ・災害に関するSDGsについては、「災害に関するインフラを整え、新しい技術を開発し、みんなに役立つ安定した産業化を進めよう」という項目が9の目標にある。福岡県内の文化財保存活用地域計画を参考にみると、9も入れているところがあるため13のほかにこちらでも当てはまるかと思う。

○配布資料1・2に基づき事務局から第3章～第7章について説明

- ・歴史文化の特性のタイトルについて、前回の協議会から整理をするために少しつまらなくなったと思う。「(2) 清流が育む歴史文化」というものが一体何なのか結局よく分からない。一番言いたかったことは、「水との戦いと共生が育む文化」といったことだと思うが、清流と言ってしまうと綺麗な川がそこにある、ということのみで何を示しているのか分からない。内容的にみると、水と戦いと共生について一貫して語っているが、タイトルをみると内容を語るようなものになっていない気がする。日田の歴史はあくまでも水との戦い、そして水との共生が育んだ歴史だと思う。現在のタイトルはまとめようとし過ぎて、結局のところ中身が掴めなくなってしまうと思う。「(3) 人・モノが織りなす歴史文化」についても、このように書いてしまえば恐らくどこの市町村でも同じように言うことができる。例えば、「人とモノの交流が織りなす歴史文化」など何かしら一言入れるとよい。

- ・「(3) 人・モノが織りなす歴史文化」は分からない訳ではないが、これはどこの市町村でも使えるというものである。内容を見ていると、いわゆる東西南北の交通の要としての日田について書かれているため、「交通の要として育まれた歴史文化」くらいにしておいたほうがまだ分かり易い。そうすると、交通の要のことを言っている文章がさらに際立つと思う。

- ・「交流」という言葉を使ったのは、要するに交通の要衝や要ということを言いたいため

である。元々のタイトルは交流拠点と一緒にしていたため、それで良いと思っていたが、今回消してしまったために尚更分からなくなってしまった。

- ・筑後川の水運が完璧に抜けている。少し説明はあるが、いわゆる木流し・いかだ流し・船運によって日田は本当に交通の要衝であった。大量の物資が日田から下流に向かって流され、また反対に、日田にも文化が入ってきている。そういった日田の水運部分が完璧に抜けている。日田の特徴というのは、江戸時代から近代に掛けての水運の成果が大きかったと思うため、是非加えてほしい。
- ・水運は陸路と比べて大量の物資を運ぶことができ、それによって日田のまちの富というのは成立するわけである。水運の話が抜けていると日田の特徴が見えなくなってしまうため、どこかに入れておいてほしい。
- ・(3)に「三隈川をはじめとする河川や陸路を通じて各地との交流が盛んに行われた」と書いてはいるが、それだけであり、タイトルに表れている具体的な内容が無い。(4)の近世のほうは経済都市としての側面はあるが、経済都市を支えた河川の交通というものが文章中で語られなければ、言葉が上澄みになっている感じがある。このあたりは後ろの全体の構成に関わってくる非常に重要なところであるため、もう一度しっかりと考えてもらえるとよい。
- ・第5章の基本方針について、基本的には「見る」、「守る」、「活かす」という県の大綱に従ってくれてはいるが、あまりにも従い過ぎており日田の特色を感じられない。もう少し踏み込んで日田らしい記述を入れ込んだほうがよい。例えば、「文化財を「知る」というのは、日田の歴史と文化の中に脈々と流れる自分にとって特別な価値を発見するものである」など、県の大綱を踏まえて日田ではどのように目指していくかといった部分を入れないと、そのまま写したように受け止められてしまう。
- ・文化財の保存・活用の段階で、活用は観光に重点を置いてしまうことが多いが、文化財は地元住民にとってこそ大事なものである。自身が住んでいる日田という場所の素晴らしさを知ってもらい、自覚してもらわないと文化財の保存にもつながらない。もう少し市民にとって文化財は何かということを考えて、市民ファーストの発想を加えていく必要があると思う。
- ・どうしても行政中心の書き方になっている。市民協働について最初で謳っているが、後半において具体的な策はあまり出てこない。日田は市民の自主的な活動が伝統的であった。その伝統を活かしながら、日田らしいところ、良いところを踏まえて行政として市民と協働して展開していく議論をしなければならない。日田市は行政中心というよりは町人文化の町である。現状では行政の取り組みが全面に出すぎてしまっている

ため、町人文化の伝統が今でも受け継がれているということを伝えてほしい。

- ・ 第6章にある現状の項目に、現状の内容が実はあまり書かれていない。外から見ていると、これまで行ってきたもしくは現在行っている市民運動やまちづくりなどはかなり色濃く、それが日田らしさだと感じる。行政はそういった市民運動との連携を展開しなければならないが、現状では行政的に書くとやってないことばかりであるため、書いてある現状が薄く見える。市民団体や民間とこれまで行ってきた伝統や大分県内で唯一の自然史博物館があること等できているところは評価することが現状把握である。その評価があまり書かれていないため、内容が抽象的になっておりもったいない。
- ・ 第6章の調査研究において博物館、埋蔵文化財センター、咸宜園教育研究センターの3つが明記されているが、どのような研究が行われているのかをもう少し明確にしてほしい。現状では博物館の研究をどこで行っているのかが読み取れない。また、日田市立博物館では市民による展示が行われているため、そういったことも加えたほうがよい。
- ・ 80ページの「79.埋蔵文化財センター運営事業」で子ども学芸員が展示体験するのは埋蔵文化財センターのみか。博物館等ほかの施設でも実施してほしい。反対に咸宜園教育研究センターで行われている子供ガイドについては、別の場所においてもできるのではないかな。
- ・ そもそも咸宜園教育研究センターが存在すること自体すごいことであるが、知らない人が読むと、そういった日田の現状が何もわからない素案となっている。
- ・ 措置の表は充実しているが、その措置の前提となる部分が希薄であるため、措置につながっていない。
- ・ 子どもたちに文化財を知ってもらうような取り組みの中で、実際に文化財を守るにはどのような仕事があるのか等文化財保存の現場について子どもたちに伝えたいと思っている。子どもたちが文化財そのものを知るだけではなく、どのようにすれば守って活用ができるのかまで学習の一環にしてもらえるとよいと思う。
- ・ 学校教育のほか、地域になると公民館活動で出かけて触れることで深く学ぶことができると感じたことがある。80ページにある「82.地区公民館との連携事業」をもう少し膨らませることによって文化財を守る意識を育てることができるのではないかなと思う。
- ・ 全てではないが公民館によっては文化財を活かしたまちづくりや連携事業として歴史

- 学習を幅広い層で行っている。ただ、それについて文化財を守るということまで伝えることができているかと言われると難しいところであるが、社会教育で可能な部分については伝えている。
- ・もう少し現状を具体的に把握し、方針につなげる必要がある。方針の中にも行政だけではなく、市民団体や同好会などの市民活動があれば盛り込んだ方が良いのではないか。
 - ・文化財や博物館において最も重要なのは調査・研究とその成果を市民にどのように発信していくかだと思っている。日田市には博物館相当施設である自然史博物館があるが、調査・研究及び発表拠点の更なる充実のために、本計画の計画期間内で登録博物館までいかずとも歴史博物館の設立について検討されてはどうか。
 - ・今後、関連文化財群に関する取組を事業として進めていくにあたって、実施主体として博物館は必要になると思う。
 - ・大事なのは具体的な話を挙げることよりも、課題として記載をすることである。現在は埋蔵文化財センターの老朽化のみに焦点が当たっているため、もう少し広い意味での博物館施設の必要性も課題となっていることまでを書いてもらえるとよい。
 - ・埋蔵文化財センターも一種の博物館である。その老朽化への対応と同時に日田市においても博物館構想を検討していく必要がある。博物館は展示に重点を置いており、それによる市民の交流及び文化財の周知に大きな役割を果たしているため、埋蔵文化財センターを含めた博物館施設についての検討を行うといった方向性がよいと思う。
 - ・埋蔵文化財センターのみでなく、市内の既存の博物館を含めて再検討を行う時期にきていることは間違いないため、そういったことを課題としてまとめていけるとよい。建物の問題など直接的な観点に焦点が当たりすぎているため、博物館の機能や在り方など根本的なところも大事にしてほしい。
 - ・博物館構想は、たくさん博物館を作るということではない。咸宜園教育研究センターなども含め、研究や展示などを行う施設はたくさんあるが、それらを統合していくようなイメージである。現在はそれぞれの文化財や施設がバラバラであるため、それらをまとめて日田市全体を博物館と捉えるエコミュージアムの発想があるとよい。
 - ・「知る」、「守る」、「活かす」の中にあるそれぞれの項目を全体で統合する必要性とそれができる場所としての博物館の話課題のまとめとして入れる必要がある。それを受けて施設の更新などの話につなげるとよい。

- ・措置の取組主体をもう少し具体的に記載してほしい。例えば取組主体が「市」とあっても、全て文化財保護課が行うわけではないと思うため、どの課が行うのかまでわかるとよい。
- ・本計画は文化財についての計画であるが、文化財保護課の管轄内のことに限定した記載となっており、縦割り行政な感じがする。日田祇園山鉾会館など観光部局が所管の施設もあり、そういった文化財に関連する施設は計画に盛り込んでおくとういのはないか。
- ・市民団体あるいは民間団体との協働に関する部分が行政中心の書き方になっており、関連が見えにくくなっているため、もう少し整理してもらえるとよい。
- ・7章の現状をみると、「～できていない」といった文章ばかりとなっているため、もう少し展望のあるものにしてほしい。
- ・まずは、できていることや頑張っていることを書いた上で、できていないことや不十分なことを入れてもらえると、それが措置において継続事業やできていないことに対する取組につながり、前向きな感じがすると思う。日田市は様々な取組を実施していると思うため、そのあたりを是非自己アピールしてほしい。
- ・これまでやってきたことに日田の特色が表れていると思うため、そこから日田市として、あるいは民間と協働してどんなことをするのかといった課題や具体的な施策について議論ができるとよい。実現可能かということもあると思うが、現在作成しているものは「計画」であるため、方向性を示すことが重要であると思う。
- ・できていないという「No」ばかりではなく、これからこうしたいという「Go」の方向性で書いてほしい。

○配布資料Ⅰに基づき事務局から第8章、第9章について説明

- ・日田市ではやはり水害が一番重要な部分となるため、水害についての記載はもう少し強調するとよい。
- ・一般災害以外では、人口減少による文化財の存続への影響についても記載があるとよいと思う。
- ・現在、無形民俗は人口減少の影響により各地で厳しい状況となっている。日田祇園も、小さな町では山鉾を引くことが大変なところもある。限定された地域では継承が難しい状況から、継承する組織をムラから保存会という形で地域的な束縛から解放してい

るところや、女性も参加できるようになったところもある。地域のアイデンティティを保つことも大切で難しいところがあるが、何らかの形で継承者の範囲を広げて繋いでいかなければならない。このように、文化財を取り巻く環境について、保存会への移行や、道具・衣装などへの支援、継承問題に対する相談窓口としての機能をもつといった対応を行う必要がある危機的状況であることをどこかで記載しておく必要がある。

- ・継承の問題については、66 ページで触れられているがもう少し具体的なところまで入れるとよい。
- ・無形民俗文化財の民俗芸能の調査が必要かと思うが、伝承活動まで含めると映像記録化が非常に重要である。無形の民俗文化財は消滅の危機に直面しており、消滅したとしても後に復元できるよう、今のうちに映像化して残す必要がある。そういったことを計画内にもう少し盛り込んでほしい。
- ・令和 10 年度開始では遅く、それまでに消えてしまうものが出てくる可能性がある。さらに、コロナウイルスの影響で民俗芸能に対するモチベーションが下がり、中断したままのものも多い。映像化に際しては、一般用に見せるものと伝承用と 2 種類の作成が基本である。モノは残るが行為は人が亡くなると消滅するため、緊急性をしっかりと検討してほしい。
- ・人が少なくなり神社の建て替えの際にもう資金が集まらないことも問題である。祭りを行う神社が無くなると祭りも消滅する。祭りについては、見学者が多いほど担い手は頑張るため、今後、特に周辺部の祭りの際には見学者を集める方法を検討してもらえるとよいと思う。
- ・市民が読むものであるため、写真などを載せたわかりやすいようなものとしてもらえればと思う。